

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794800066		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホーム松原なごみ(Aユニット)		
所在地	大阪府松原市東新町5-4-10		
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年9月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が退屈されないように入居者様の要望をお聞きし、行事を行い豊富に取り揃えております。定期的に外食レクリエーションや外出レクリエーションを行っている。特に毎年開催されている提携医療機関の日帰りバス旅行は家族やご友人などにも参加していただける行事となっており、大変満足されています。最近では地域の公民館を借りて、ダンスショーや大道芸、慰問プロレスなど入居者様をはじめ、家族様、地域の方々にも楽しんで頂ける交流の機会もあります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は開所から約1年半が経過し利用者や家族、職員がコミュニケーションを図り、地域の方とのふれあいを大切に考え支援しています。オルガン演奏や三味線、大道芸等多岐にわたるボランティアの来訪がありその際には地域の方々にも声をかけ一緒に楽しんでいます。またグループホーム連絡会を通して他の事業所との繋がりを大切に様々な情報を得ながら認知症への理解やグループホームを知ってもらう取り組みに繋がっています。日々のケアでは利用者の思いを大切にされた能力が発揮できるよう常に話し合い快適に過ごせるよう支援に努めています。また外出の機会を多く作り、日常的に散歩や希望に沿った外出を始め、季節毎に花見や紅葉狩り、初詣等に出かけています。職員は笑顔で利用者や家族、地域の方々とも接し、地域に根差した事業所となるよう取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム松原なごみ(Aユニット)	すべての人の尊厳を尊重するという理念に基づき、わかりやすい場所に掲示するとともに、出勤時に認知症への対応十か条を常に振り返り出来る様に心がけている。	法人理念をホームの理念として掲げ「入居者様ご家族様 職員または地域の方々全ての人々の尊厳を大切に」という理念に込められた思いを入職時や会議において話し合う機会を設け、エレベーター横に掲示し常に意識できるようにしています。日々のケアでは理念を意識して関わり実践に取り組んでいます。	
2	(2)	大阪府松原市東新町5-4-10 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員になれるように、積極的に学校や地域の人々との交流の機会を作り、公民館やホームで企画を行っている。	自治会に入会し回覧板にて地域の情報を得て老人会の行事などに参加しています。ホーム主催のクリスマス会では公民館を借り利用者や家族、高校の吹奏楽部、地域の方の参加を得て開催し、三味線などの多種のボランティアの訪問もあります。また利用者が散歩している際には近隣の方と挨拶する等良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H27年度より、松原市グループホーム連絡会ができ、地域包括センターと連携をとり、公民館で認知症の人への理解やグループホームの概要など地域に向けて活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、家族、民生委員、地域の方、市職員で構成し、会議では、利用者の状況やホーム内の出来事、行事などできるだけ詳細に伝えています。	運営推進会議は2ヶ月に1度家族、市高齢介護課担当者、自治会長、民生委員等の参加を得て開催されています。ホームからは利用者の現状や行事についての報告が行われています。お花見に良い場所のアドバイスや地域の情報を得ています。活発な意見が出されサービスの向上に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会で市職員、包括支援センターから事業所の実情や相談、研修の情報など、意見交換をしている。	グループホーム連絡協議会には市の担当者の出席があり、意見交換やアドバイスをもらう機会があります。制度上の問題や個別の事例等問題点については直接相談ができる体制が構築されています。また、勉強会などの案内もあり参加を予定しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを整備しており、職員がいつでも閲覧できるようにしている。禁止の対象となる具体的な行為についてもいつでもみれるよう申し送りにファイルしている。	新人研修では身体拘束マニュアルを用い研修を行っています。勉強会や会議の中でも身体拘束とは何かという事を話し合い、日々のケアにおいても不適切な対応があれば個別に指導を行っています。出入口は施錠していますが、外に出たい様子が見られた場合は職員が付き添ったり見守りながら外気浴や散歩を支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待が見過ごされることがないように入居者の様子を確認し注意を払っている。職員へのストレスなどにも注意しいつでも話ができるよう心がけている。勉強会については今後外部研修の受講を検討している。		

グループホーム松原なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がおり、職員間で情報を共有する他、成年後見制度のパンフレットを職員がいつでも見れるようにフロア毎にマニュアルを置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書を用いて丁寧に説明している。不安や疑問をもたれた時は、詳しく説明する様、心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に現状の報告を随時行っている、玄関に意見箱を設置している。遠方の方には、手紙や電話で意見を求めており、月1回、近況の報告をしている。その他、運営推進会議で意見交換して運営に反映させている。	家族の面会時には直接意見を聞いたり、近況報告を行う際にも要望を聞き改善に取り組んでいます。利用者が入院中であってもホームの状況を知らせて欲しいとの要望等、出来る事は速やかに対応して、結果は家族に送付しています。また、個別の意見であっても他の利用者の対応を見直すことも心掛け、サービスに反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議を設け、代表者も参加し、職員の意見や提案に限らず、疑問不安など様々な事を話し合う機会を設けている。管理者は、毎日の申し送りやフロアの会議に参加し意見交換を行っている。	日々の業務の中で各担当職員からの意見や提案が多く出され、申し送りやフロア会議、全体会議の中で検討し話し合い、業務改善や情報の統一についての改善に取り組んでいます。悩みを抱えている職員には管理者が個別に面接を行い、仕事をしやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と連絡や相談等連絡をとり、職員の個々の実績など報告し把握に努めている。全体会議などで、各自が向上心を持ってもらえるような、勉強会の提案やレクリエーションの提案など協力し努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を行うと共に、協力医療機関からの医療の勉強会を実施してスキルアップを目指している。その他、認知症実践者研修を順次受している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と交流しており、意見交換を行っている。その他、H27年から松原市グループホーム連絡会で交流を3ヶ月に1回行っており、意見交換を行っている。電話でも相談など随時行っている。秋に連絡会開催で勉強会を行う予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に面談を行い、本人・家族に詳しくグループホームへの理解をしていただき、不安が出来るだけないように努め、アセスメントを行う事で要望など確認するよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族との面談の機会を心がけ、意見や要望を拝聴できるよう対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を伺い、他職種からの意見も参考にした対応を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割をもつていただき、個々の能力に応じ、一緒におやつを作ったり、洗い物や掃除など職員と一緒にしたり、食事を一緒にとったり、ホームの一員である事を実感してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設のイベントや日帰りバス旅行に出来る限り参加していただけるように、日程を調整し本人と家族が楽しんで過ごしてもらえるよう呼びかけして絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームでの面会は可能な限り、自由にさせていただいている。本人の要望で馴染みの場所へ散歩でいったり、車を利用してスーパーマーケットで買い物したりしている。	家族以外にも知人が面会に来られることもあり、その際にはリビングや居室、相談室等でゆっくり過ごせるように支援をしています。外出時には思い出の場所に出かけたり、墓参りや葬儀等も利用者の思いを知り出来るだけの対応を行っています。また手紙や年賀状のやり取りや電話の取次等の支援を行いこれまでの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすいように職員が間に入りレクリエーション(カラオケ・外出レク 外食レク)を通じ利用者同士が触れ合えるようにしている。		

グループホーム松原なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからも、必要に応じて相談や支援に努めている。他サービス利用の希望時などには、情報提供させてもらってフォローをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にアセスメントをとり、本人の暮らしの希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、今までの生活歴や家族から情報を得て、出来る限り本人の立場に立ったケアに努めている。	入居前に利用者や家族の思いや今までの生活状況など出来る事や出来ない事、日課、習慣、好み等を面談で聞き取ったり、以前のケアマネジャーから情報を得て意向を把握しています。入居後は利用者本位の生活支援に向けて日々の様子を記録し、カンファレンスで検討し職員間で共有できるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族に十分に聞き取りを行い把握に努めている。必要に応じて在宅時のサービス関係者や介護支援専門員に情報提供を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで、本人の状態を把握し、全員が確認できるようにし、申し送りを確実にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットフロアで会議を行い、必要に応じて家族、関係者とも話し合い、意見を取り入れ計画を作成するよう努力している。	本人の思いや家族の意向、心身の状況等をアセスメントし、サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。計画の実施状況を日々記録に残しモニタリングを3ヶ月毎に行っています。個々の計画の評価は6か月毎に行い、計画が現状に即しているかを確認し、見直しています。見直しに当たっては、再アセスメントを行い家族の意向や医師等から意見をもらい、計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録を活用し、介護経過に残し、フロアの会議などで情報共有しモニタリングを行い計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズにできる限り対応しています。例えば、外食を希望されている方がいる場合、職員が付き添い外食する等、ホーム内で囚われずサービスを提供しています。		

グループホーム松原なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみのスーパーへの買い物や散歩コースに出かけ知り合いの方との交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の提携医療機関についての説明をし、今までの本人のかかりつけ医との選択をして頂き、本人、家族がどの様に医療を受けたいのかも、聞き取りを随時行っている。	入居時に今までのかかりつけ医を継続できる事も伝えていきます。協力医の往診は月に2回あり、夜間や緊急時には往診医と24時間連絡が取れ相談や連携を図っています。また訪問看護師は週に1回の訪問と24時間相談が出来る体制も構築されています。他の医療機関への受診は家族に情報提供を行い協力を得ており必要に応じて職員も同行しています。また、歯科や整形外科の往診もあり希望者は治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、訪問看護師に連絡を取り、日常の情報や気づきなど、申し送っている。個々の利用者が適切に看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のマニュアルを整備し、入退院時に情報提供書、看護サマリー、介護サマリー、薬の情報提供を行っている。 病院の地域医療連携室のソーシャルワーカーや病棟の看護師と連絡を取り、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	長期入院など重度化する前に、本人・家族・医師・看護師・職員を交え本人の思いを考慮しながら、話し合いの場を設けている。	入居時に重度化の指針についての説明を行い、家族の同意を得ています。重度になった場合には、家族やかかりつけ医、事業所の三者で話し合い家族の希望を聞き状況に合わせて話し合いを重ねながら方針を決めています。出来るだけ本人や家族の思いに応えられる様に看取りの対応に向けての基盤作りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当についてのマニュアルを完備し、提携医療機関の訪問看護師による勉強会を行っている。今後も定期的に行う予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、内1回は消防署立ち合いのもとで実施している。地域の方に訓練をお知らせすると共に参加への呼びかけも行っている。	年に2回消防訓練を行い内1回は消防署の指導の下、夜間の火災を設定し通報から初期消火、避難誘導や消火器の使用方法も含め利用者と一緒にしています。訓練時には協力が得られるよう地域の方に知らせ、参加を呼び掛けています。災害時に備え備蓄品の準備が出来ています。	

グループホーム松原なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念を念頭に置き、日々丁寧な対応をするように指導している。 プライバシー保護のマニュアルを整備し、いつでも閲覧できるようにしている。	入職時には接遇や尊厳についての研修を行っています。利用者一人ひとりに尊敬の気持ちを持って対応するよう心がけ、否定をしない言葉かけや対応を行うよう指導しています。同性介助を希望する場合もソフト等を考え希望に添えるよう配慮しています。不適切な対応が見られた場合はその場で注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず寄り添い聞く事を大切にして職員の考えでなく利用者から自己決定できるようにしていただいている。例えば、おやつレクでは自己決定が出来るようにトッピングなどを選択できるような工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを大切にし、その人らしいペースで生活を送っていただけるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用していただき、必要に応じて、カット、毛染め、パーマ、顔そりなど本人の意向を確認している。希望があれば近所の美容室も利用されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食事の下ごしらえやおぼん拭き、食事の片付けなどお手伝い頂いている。毎年新年会には職員と一緒に鍋を囲み、元日には雑煮やおせち料理を準備し季節の行事食はいろいろと工夫しています。	業者の栄養士が立てた献立に合わせて食材が届き、食事の準備や盛り付け、後片付け等出来る方と一緒に携わってもらい、嗜好等個別の対応も行っています。食卓では職員も同じテーブルで見守りながら一緒に食事を摂っています。また月に1回のイベント食では鍋料理や外食に出かけ食事を楽しむ機会も設けています。おやつは利用者の希望を聞き、どら焼きやゼリーなどを作ることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体としては、食材業者に委託し、栄養士管理のもと、栄養バランス、量など個々の状態に応じて随時対応している。(おかゆ、ミキサー、刻み食、トロミ等)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。毎週の訪問歯科による衛生管理、指導も行っている。初回は無料検診を行っている。		

グループホーム松原なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間やパターンがわかりやすいように排泄チェック表を設け、排泄パターンが把握しやすいようにしている。チェック表をもとに職員が話し合い、パターンをもとにトイレの声かけをする等支援している。	排泄チェックを行うことにより個々のリズムを把握しその人に合わせたトイレ誘導を行っています。また、おむつやパットの種類を検討したり、ポータブルトイレを設置する事で、夜間安心して眠る事ができるようになり、日中でもトイレの失敗が少なくなった事例もあり自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の起床時の冷水や配茶の時間に食物繊維の多い飲み物や食べ物などを提供したり、水分がより多く摂取できるような機会の確保に努めている。毎日、ラジオ体操、口腔体操をするなど働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴前に健康チェックし、体調が優れないときは、他の日に振り返るなど柔軟に対応している。楽しんでいただけるように入浴剤を何種類か用意している。今後季節に応じた季節風呂なども検討中。	入浴は週に2回利用者の希望を聞いたり体調に合わせて対応しています。入浴を拒む方には無理に勧めることなくタイミングと声かけを工夫しています。都度湯を入れ替え本人専用のシャンプーや石鹸を使う方や好みの入浴剤を選んで色や香りを楽しんでもらい、ゆっくりと入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し体調の変化を考慮して休息やを取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品については処方時、変更時など薬局の薬剤師や訪問看護師に相談したりしている。職員にはわかりやすいように薬の説明書を介護記録のところにファイリングしていつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントで生活歴や嗜好品の把握に努め、日常生活の中で生活歴や嗜好品など会話の中で聞くように心がけている。希望があれば、スーパーに行ったりして嗜好品の買い物され楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩は行くようにしている。希望があれば、近くのスーパーへ買い物へ行ったり、公園へ行ったり、少し離れた場所では希望により吉本新喜劇を見に行った。	毎日少人数で散歩や買い物に出かけています。利用者の希望を聞き個別でプロレス観戦等に出かける事もあります。桜の花見や紅葉狩り、初詣など季節毎の外出の他に年に1度、家族や地域の方を誘ってのバス旅行や定期的な外食等、日頃から外出の機会を持てるように心掛けています。	



グループホーム松原なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方がおり、出来る限り本人様に管理して頂き、買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り本人の希望に添えるよう支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアは季節感を感じとれる飾りつけなど配慮し工夫を重ねている。	共有空間は毎日清掃し清潔を保てるよう心掛け、定期的な換気や温湿度に留意し、冬季は加湿器を設置しています。ひな祭りや夏祭り、七夕等季節の飾りつけも行い、リビングは利用者が集う食卓の他、テレビ前にソファを置き休んだり一人になれる場所を確保しています。また、利用者の状況によりテーブルや椅子の配置を変え心地よい空間になるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも気を配り、職員が間に入り、利用者同士が穏やかに過ごせるように配慮している。リビングにソファを設置しており、ソファでテレビをみたり、横になられ過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室では入居時に、本人や家族と相談し馴染みの物や家具などご持参頂き、入居後も随時相談をしながら、本人の意向に添えるよう配慮させて頂いている。	入居時に馴染みのものを持ってきてもらうよう伝え自宅で使用していた絨毯や鏡台、テーブルなどを持参し、家族と相談しながら配置しています。また大切な仏壇や安心できる縫いぐるみなどを持参している方もあり、自宅のように寛いで過ごせるよう配慮しています。居室は洋室ですが畳みを敷き布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の動線について十分に職員間で話し合い、家具の配置等に配慮し安全に生活出来る様心がけている。		